



Disability—Determination and Evaluation

By Henry H. Kessler

最近, Disability, Impairment, Handicap というような用語の解釈についていろいろと論議されているが, それは適当な日本語に訳されることが困難なためである。

McBride, Rice, Schneider, Thuber, Smith らを含む多くの著者達は Disability の評価について彼等自身の体系を発展させてきた。

著者 Kessler は Disability の意味を身体的欠陥又は Impairment (損傷) を意味し, 社会的あるいは経済的地位が個々におかされた結果生ずるといっている。

この用語は, Invalidity (病弱), Crippled (無能), Handicapped (困難), Chronically ill (慢性疾患), Long-term (長期間に渡る疾患) などと同じような意義にとれる。フランス語では Blesé, Mutilé, Invalid で, ドイツ語では Berufsunfähig, Erwerbsunfähig である。

この本の目的は Disability の全体的な概念を再確認しその意義, 経済上のあるいは生理学的意義について論じ

ている。

内容は次の 11 セクションから成っている。

1. Disability の概念
 2. 医学的基準
 3. 非医学的基準
 4. Physical Impairment の医学的評価
 5. 上肢の Impairment の評価
 6. 下肢の Impairment の評価
 7. 四肢以外の Impairment の評価
 8. 労働者の補償
 9. 社会的な保護計画における Disability の救済
 10. 高齢者の年金
 11. 将来のゴール—それを考慮するための事項
- などについて詳しく述べられている。

医療関係者が一読して価値あるユニークな図書である。

(Lea & Febiger, 1970)

(高知リハビリテーション学院, 理学療法士 馬場将夫)

Spinal Cord Injury—A Treatment Guide for Occupational Therapists—

By D. J. Wilson, et al.

この本は, 作業療法士及びインターンの学生に, 脊髄損傷患者に接する場合の評価方法, 治療プログラムのたて方を教えるために書かれたものである。

著者らの勤務している Rancho Los Amigos 病院は 850 床のリハビリテーション施設で主に重度の身体障害者を扱っている。このうち, 80 床は脊髄損傷患者用で米国における最も大きな脊髄損傷センターの 1 つである。ここでの経験をもとにこの本は書かれているが, 著者らは「この本はガイドラインを示しているのであって, 脊髄損傷患者に対する治療の公式と見るべきではない」と強調している。

本文は次のように分かれている。

1. 脊髄損傷に関係ある用語の解説
2. 病因論
3. 症状と障害
4. 脊髄損傷のタイプとその予後及び効果
5. 作業療法の評価法
6. 患者のゴールと治療プログラム
7. 治療のすすめ方 (ガイドラインと助言)
8. 装具
9. 車椅子の処方
10. 自動車運転訓練
11. 退院後のプログラム
12. 装具の入手先一覧表
13. 映画文献
14. 参考文献
15. 脊髄損傷についての文

献目録

全体としては, 脊髄損傷患者に接する上での必要最少限の項目をくまなく網らし簡単な説明をしているので, 初めて脊髄損傷患者に接するセラピスト, 学生には良い手引書となる。しかし, 各々の項目については「広く浅く」の感がするので, もっと深く知る場合は他の文献にあたる事が是非必要である。

この本の特色であり, 著者らも力を入れて書いているのは第 8 章, 装具の章でこの本の 1/3 以上の頁を費している。著者らの一番得意とする所の様で, 手の解剖, 装具のメカニズム, チェックポイント, 評価, 訓練法について, 最新の Flexor Hinge Splint, Mobile Arm Support 等について明解な図入りでいていねいに書いている。この章だけでもこの本の価値を認めることができる。英文も解りやすく読みやすい。

脊髄損傷患者と接する OT, PT, 学生, 補装具にも, ぜひ一読をすすめたい。

(Charles B. Slack, Inc., 90 頁, 1974)

(都心身障害者福祉センター, 作業療法士 古川 宏)